

バックアップ機能使用時のファイル保存先に関するご注意

1．現象

バックアップ機能を使って、プロジェクトのバックアップを行う場合、バックアップ処理が終了すると、拡張子「.esr」を持つバックアッププロジェクトファイルが自動的に作成されます。

しかし、このときバックアッププロジェクトファイルの保存先の空き容量が不足していて、正常に保存されなかった場合でもエラーメッセージが表示されません。

2．現象例

例えば、プロジェクトファイルが2 M バイトを越えるようなプロジェクトのバックアップをとる場合、拡張子「.esr」を持つバックアッププロジェクトファイルの容量は2 M バイトを越えるためフロッピーディスク（1.4 M バイト）には保存できません。しかし、このような場合でもエラーメッセージが表示されることなく、バックアップ動作が終了してしまいます。

このような場合には正常にバックアッププロジェクトファイルの保存が完了していないため、後でリストア操作を行おうとしてもバックアッププロジェクトファイルが読み込めず、リストア作業ができなくなってしまいます。

3．回避方法

バックアップ機能を使うときは、バックアッププロジェクトファイルの保存先の空き容量が十分であることを確認してから、保存先の指定を行うようお願い致します。

なお保存先にはバックアップの対象となるプロジェクトファイルサイズの2倍以上の空き容量があることを目安にしてください。

（例：プロジェクトファイルのサイズが2 M バイトある場合は、バックアッププロジェクトファイルの保存先に4 M バイト以上の空き容量があること。）

また、オリジナルのプロジェクトファイルを削除する場合には事前にリストア機能でバックアッププロジェクトファイルが正常に読み込めることを確認した後に、削除することをお勧めします。